

# タイタニック 別れの航海 —トーマス・アンドリュースの選択—

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也

世界最大の豪華客船タイタニック号は1912年4月14日の深夜、処女航海中の北大西洋で氷山に衝突し、翌日未明にかけて沈没した。犠牲者が乗務員・乗客あわせて1500人を超える史上最悪の海難事故として全世界に衝撃をもたらす。

乗務員の中にはタイタニックの主任設計技師であるトーマス・アンドリュース(1873-1912)も含まれていた。イギリスの造船会社ハーランド&ウルフの常務取締役・設計部長のトーマスは初の航海に同乗して今後の改善点をチェックする役割を担っていた。

とはいえ安全性に細心の注意を払ったタイタニック号は「神でも沈めることができない不沈船」を謳い文句にするほど頑丈な威容を誇っていた。それがなぜ脆くも沈没してしまったのか。あるいは未曾有の犠牲者を出したのか。そして絶体絶命の危機に直面したトーマスはいかなる行動を起こしたのか。

## 希望に充ちた至福のとき

トーマスは北アイルランドのコンバーで父が代議士を務める名家に生まれた。船が大好きな少年でベルファスト王立アカデミーを卒業後、16歳で叔父が経営するハーランド&ウルフの見習い社員として働き始める。

5年の見習い期間で機械工学の知識や現場作業におけるチームワークを身につけた。仕事熱心で休憩時間のまえに休んでいる作業員を見つけると

激怒した。その一方で危険な作業をみずから買って出たり、病身の妻を抱えた同僚に花束と果物を贈ったり、真摯な人柄で周囲から信頼された。

有能な働きぶりで28歳の若さで建設工事部の部長に

抜擢され、1907年に常務兼設計部長に昇格する。翌年、ヘレン・バーヴァーと結婚し、2年後に娘のエリザベスが誕生した。

1909年、海運会社ホワイト・スター・ラインの新たな大型外洋客船タイタニックの建造が開始された。トーマスは主任設計技師として細部に至る綿密な設計図を練り上げる。全長269.1m、全幅28.2m、高さ53mに及び、収容する乗客は1等329人、2等285人、3等710人、乗員も899人にのぼった。船体後部には1等客専用の豪華絢爛なレストラン・アラカルトが設けられた。安全性にも万全を期し、船底は二重底で水面よりも高い防水壁が16区画で整備された。

タイタニックの完成が近い春の夜、トーマスは妊娠中のヘレンをベルファストの造船所に連れだして船内を案内する。ふたりが甲板に出ると地球に接近していたハレー彗星が夜空に明るく輝いていた。仕事も私生活も希望に充ちた至福のときを



トーマス・アンドリュース

迎えていた。

## 港の絵を見つめながら

1911年、タイタニックの晴れやかな進水式には約10万人の見物客が集まった。試運転を済ませて翌年4月10日にアメリカ・ニューヨークへの初出航が決定する。トーマスは救命ボートが不足していると主張したものの、予算や景観を損なうなどの理由で最低限の数しか配備されなかった。

1912年4月10日、ハーランド&ウルフを代表してタイタニックに乗船し、サウサンプトンの港から出発した。航海直前にヘレンに宛てた最後の手紙で「タイタニックは人類が作り上げたものとしては完璧に近い」と誇らしげに書いている。

出航後は船内を点検し、今後の改良点を詳細に記録した。同時に豪華客船に不慣れなクルーたちをサポートしたり、喧嘩の仲裁役を引き受けたり、乗員にとって頼りになる存在だった。

4月14日午前中から船舶間の無線通信で流水群の危険性がたびたび警告された。だが季節的現象として軽視され、海面に霧が漂う午後11時40分頃、右舷が氷山に衝突する。エドワード・スミス船長はトーマスを呼び出して損傷部の調査を依頼した。防水壁の亀裂から海水が流れ込み、急激な速さで浸水していることから、トーマスは沈没の危機にあることをすぐに察知した。

避難が始まると乗客に救命胴衣を着けてデッキに上がるように声をかけてまわった。生き残った乗客のひとり不足している救命ボートの代わりにデッキチェアを必死で海に投げ込んでいる彼の姿を目撃している。

午前2時10分頃、最後の目撃者として乗客係のジョン・スチュアートは一等船室の喫煙室で呆然とたたずんでいるトーマスを見かけて驚いた。救命胴衣がテーブルに投げ出してあったからだ。「お付けにならないのですか?」と尋ねても何も答えず、暖炉の上に掲げられたプリマス港の絵をじっと見つめていた。プリマス港にはニューヨークからの帰路に寄港する予定だった。

浸水の重みでタイタニックは船首から沈み出し、船尾が海面から高く突き出た格好になった。午前2時20分頃、轟音と共に船体は引き裂かれるよう

にふたつに折れ、零下の海に投げ出された人々の大半は低体温症や心臓麻痺で絶命した。

## 運命に立ち向かうヒーロー

救命ボートにはスミス船長の指示で女性や子供たちが優先的に乗り込んだ。約2200人の乗船者のうち約700人が救出された。沈没のときが迫るとスミス船長は乗員に「自分のために行動せよ」と言い残してタイタニックと運命を共にする。

ジョセフ・ベル機関士長が率いる機関部員34人も全員脱出することなく電力を供給しつづけた。バンドマスターのウォレス・ハートリーは楽団員と共に甲板で演奏をつづけ、残った乗客らの不安をやわらげようとした。トーマス・バイルズ神父は沈没の寸前まで乗客らに聖書を読み聴かせた。1等船客の貴婦人エディス・エバンズは他の女性に救命ボートの座席を譲って誇り高く最後のときを迎えた。

待望の処女航海に同乗していたホワイト・スター・ライン社長のジョセフ・ブルース・イズメイは午前1時40分頃、右舷最後の救命ボートが降ろされると、まだ大勢の乗客が残っていることを知りながら女性や子供に混じって駆け込んだ。皮肉にもトーマスが要求した救命ボートの増加を却下したのはイズメイだった。イズメイを乗せた救命ボートは史上初の国際遭難信号となるSOSを受信したカルパチア号に救出された。ニューヨーク到着後、アメリカ上院の査問委員会に召喚され、すべての責任を船長に押しつけて激しく非難される。事故から1年後に辞職を余儀なくされ、西アイルランドの郊外でわびしい隠遁生活を送った。イズメイ夫人は後年「タイタニックが私たちの人生を破滅させた」と語っている。

妻とひとり娘を残し、39歳で夭折したトーマスの献身的行為は新聞各紙などで讃えられた。遺体は発見されなかった。彼に説得されて救命ボートに乗り込んだ客室係のメアリー・スローンはのちに手紙にこう書き記した。

「アンドリュース氏は運命に立ち向かう真のヒーローだ。大きな危険を認識しながらも、命がけでタイタニック号の女性や子供を救った。彼だからこそ、できたことだ」。